

## ●サンフランシスコ市・フィッシャーマンズワーフを 視察して

団員 松本 久美子

### 【はじめに】

この度、平成30年度海外都市行政視察で訪れたアメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコ市にあるフィッシャーマンズワーフの行政視察について報告する。

### 【概要】

サンフランシスコは人口88万人のアメリカ合衆国内で二番目の密集都市である。フィッシャーマンズワーフは、サンフランシスコ湾の北部にある古い漁港であったが、過密化する都市の新たな開発区域として公的領域開発計画により、現在ではサンフラン



(ショッピングモール)

シスコで一番有名な観光地として広く知られるようになった。フィッシャーマンズワーフとは「漁師の波止場」という意味で、19世紀半ばのゴールドラッシュでサンフランシスコが栄えてきた時期にできた漁港である。一説によると、ゴールドラッシュで金を掘らなかつたイタリア人が、サンフランシスコ湾の魚介類を取って売ったことが始まりであると言われている。ここでは古くからカニやエビなどの高級食材が水揚げされ新鮮な魚介類を食べさせてくれる漁港として栄えてきた歴史があるが、現在では、水産市場の競り市で扱われているのはカニだけで、漁港は地元の人を喜ばせるエリアに改革されている。かつて漁

船が停まっていた港には、現在はレジャー用の船を停めるヨットハーバーが数多く見られる。フィッシャーマンズワーフは、ショップやレストラン、博物館、お土産店、ホテルなどが並んでおり多くの観光客で賑わっているが、地元の人達にも大衆的で気取らない雰囲気好まれ、憩いの場所にもな



(ヨットハーバー)

っている。ここを訪れる人の数は、1日当たりでは、オフシーズンの冬季では約300人、夏期では1,000人であり、集客力の高さは抜群で経済波及効果を生んでいる。



(フィッシャーマンズワーフ)

また、それほど広くはないフィッシャーマンズワーフのエリア内の目立つところに、カニのマークの大きい看板がある。これはゴールデンゲートブリッジと並ぶサンフランシスコを象徴するシンボルマークである。また、アウトドアショッピングモールは木

造の栈橋の上であり小さな土産店やシーフードショップ等の100店舗以上がひしめき合っ軒を連ねており、見て歩いて一日は充分楽しめる。また、この地はチョコレートの発祥の地であり、世界で初めてチョコレートを生産したギリ・チョコレート工場の跡地をショップにしている。ここでしか手に入らないブランドチョコレートは消費者意識を掻き立てる。また、レストランや屋台では新鮮なカニやエビを茹でたもの、シーフードサラダ、シュリンプカクテル、サワーブレッドに入ったクラムチャウダーなど、ここでしか食べられない

メニューが人気を集めている。

次にアクセスは、公共交通機関が発達しており路面電車又はケーブルカーの利用が一般的である。若い人の自動車離れや市民はバスや地下鉄、自転車を利用することに対する意識が高く、漁港周辺は手狭で車を停める駐車場などの設備は見当たらなかったが、サンフランシスコ空港から一駅乗り換えて路面電車又はケーブルカーのどちらに乗りしてもフィッシャーマンズワーフは終着駅になっているので公共交通機関が便利である。また、この周辺には有名な観光地や歴史的な建造物を見ることができる。たとえばフィッシャーマンズワーフから海を臨むサンフランシスコ湾にはゴールデンゲートブリッジ(金門橋)、沖合にはアルカトラズ島を見ることができ、観光客はここから遊覧船でアルカトラズ島へ渡ることができる。

また、船着き場にはアシカの群れ約100頭が寝そべっている不思議な光景が見られた。このアシカは1989年ごろよりここに集まるようになり当初は10～50頭であったが、徐々に増え続けピーク時は2009年で、約1,700頭が集まっていた。徐々にア



(船着き場のアシカの群れ)

シカの群れは有名になり、このアシカを見るのが目的でフィッシャーマンズワーフを訪れる人が増えアシカの群れは集客に一役買っている。一見すれば、船着き場もヨットハーバーもアシカに占領され、アシカの群れは邪魔な存在にも見えたが、市民は一般的にありがちな自然動物の突然の訪問を追い払うようなことはしなかった。初めてアシカが訪れた日から今日まで長い年月にわたり自然愛護、動物愛護の精神により保護され続けている。

【まとめ】

本市のウォーターフロントアクセスの地の利を生かした鮮魚市場や港の活性化については、地元の人を喜ばせるアクティビティの改良、アクセスの良さ、公共交通機関の便利さ、瀬戸内海で獲れた新鮮な魚介類をその場で調理しここでしか食べられない本物志向レシピの改良、屋台で販売するなど大衆向きで気取らない雰囲気やインスタ映えするディスプレイ、お洒落なシンボルマーク等の改良、一日中歩いても楽しめる歩きやすさ、地域との親和性と調和や公共的コミュニティの強化を図ることであると考える。